

短 報

イタリーマンテマについて (浅井康宏)

Yasuhiro ASAI: On *Silene gallica* L. var. *giraldii* (Guss.) Walters in Japan

最近、大分県のフロラに造詣の深い荒金正憲氏から、大分市・生石で採集された (1993. 5. 3) マンテマ属の標本を送って戴いた。これを種々検討してみた結果、筆者もイタリー南部地方を原産とするイタリーマンテマと同定した。このように近年、各地から筆者のもとへ寄せられるマンテマの標本に混じって、本種と思われるものが可成り見出される。

ところで我が国では、初めて本種の存在を明らかにされた原 寛博士以来、これは独立種 (*Silene giraldii* Gussone, Enum. Pl. Inarim. 36, 1854—Hara, Journ Jpn. Bot. 10: 403, 1934—Pignatti, Fl. D'Ital. 1: 257, 1982) として扱われてきた。しかし多くをを詳細に検討してみると、植物体が無毛 (上部の腺毛を含めて) で、粘着しないことや、萼筒がやや瘦長であるなどと

いった点を除いては、現在、我が国に広く帰化しているヨーロッパ原産のマンテマ (全草に開出した長粗毛や長い腺毛をもつ) との間に、顕著な差を認めることが出来ない。したがって筆者は、最近、原産地などでも扱われているように、これを独立種とせずシロバナマンテマの種内に含める (*S. gallica* L. var. *giraldii* (Guss.) Walters) のが妥当であると考え。ちなみに筆者は、従来、このような点を踏まえて、便宜上、これをケナシマンテマなる名で呼んでいることを附言しておきたい。

なお上述のように本種は、全国各地でマンテマに混じり、あるいはこれと誤認されている可能性がある。同学諸氏の再検をお願いしたい。

(東京歯科大学)

ニュース

新日本地名索引の内幕 (金井弘夫)

Hiroo KANAI: An Inside Tale of "New Index Gazetteer of Japan"

この索引について本誌69巻1号に、大橋広好氏のご紹介をいただいた。その中で「野火止の平林寺が載っていない」ことが指摘されている。この名刺が地図に記されていないとは思われないので、採録原稿および地図を調べた結果、平林寺は地図に記されているが、採録作業の際拾い落とされていることがわかった。このことは新日本地名索引制作の内情や基本方針に関わるものなので、その一部を披露して利用者の注意を喚起し、あわせてご協力を求めたい。

地名採録に当たっては、「図中に現れるすべての文字列」を拾うことを作業者に指示した。地図

には地名以外、たとえば鉄道・道路・施設・建造物・社寺・駅・橋・ダム、の名前がたくさん記されている。「地名」を拾うことを指示すると、何が地名であり何がそうでないかを判断せねばならない。それにわれわれが用いる採集地の記録には、地名でないものがたくさんある。野火止の平林寺はその部類である。しかし吉祥寺となると、地名の場合も建造物の場合もある。私が従来多くの地名辞典や地名索引で不満を感じるのは、位置特定の手段が不足であることの他に、著者が「地名」と判断し、しかも記録の価値あるものと評価したものしか記載されておらず、植物の産地がどこか